

## ショートコメント vol.263 (2022年11月17日)

テーマ：10月は韓国の牽引でインバウンドが回復  
～今後は台湾の動向と新型コロナの感染第8波がカギ～

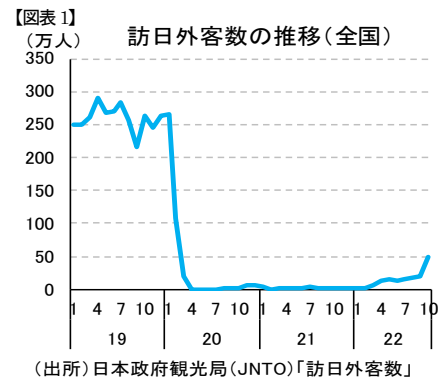
### ●入国規制緩和後の動き

10月11日から入国規制が大幅に緩和され、それに伴うインバウンドの動きが注目を集めている。

10月の初動によって、今後の回復状況もある程度占えるだけに、今月の数字は大きな意味をもつ。そういった中、10月の訪日客数は全体で49.8万人となった(図表1)。まだコロナ前比では80%減という水準にとどまるが、前月の20.6万人からは約2.5倍に増えている。

今月の実績をどう評価するかは難しいものの、ひとまず一定の回復がみられたことは間違いない。

さらに、規制緩和が10月11日以降であり、月初はその恩恵がなかったことも勘案する必要がある。たとえば今月の実績を元に、仮に1日から規制が緩和されていた場合の訪日数を概算すると、65万人前後に達した可能性がある。



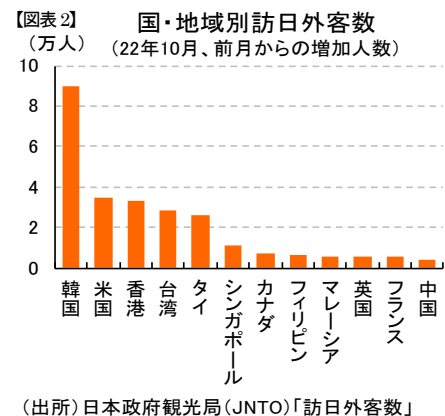
### ●韓香台が回復を牽引

一方、今月は前月に比べて、訪日客数が約30万人増えたが、うち9万人を占めた韓国を筆頭に、香港(3.3万人)、台湾(2.8万人)の「韓香台」で15万人と、全体の52%を占めた(図表2)。

さらに米国(3.5万人)やタイ(2.6万人)などの増加が目立ったが、全体としては東アジアが牽引する形となっている。ゼロコロナ政策の続く中国の回復が遅れる中、やはり当面は韓香台の趨勢がカギを握りそうである。

他方、国ごとの回復率でみた特徴については、韓国の動きが突出しているほか、10月に入って米国やカナダといった北米圏、タイやシンガポールの東南アジア、フランスなどの改善がみられる(図表3)。欧米を先頭にウィズコロナ政策が順次進む中、訪日客の動きにもそれが反映された形といえよう。

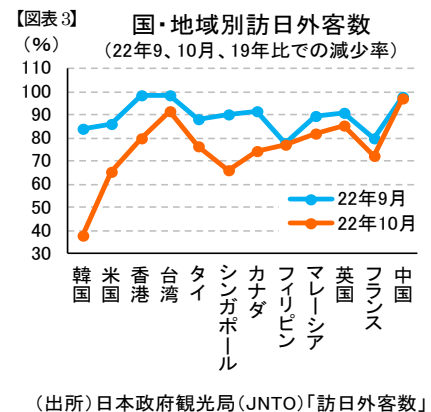
それに対し、中国はもちろん、台湾についても回復の動きはまだ限定的であることが分かる。



### ●カギを握る台湾の動向

中国はゼロコロナ政策が継続中であるため、今後の訪日客数の回復は、引き続き韓国、香港、台湾がカギを握りそうである。すでに韓国は一定の回復が進んでいることから、当面の伸び代は台湾、香港が担うことになろう。中でも、規模の大きな台湾の動きが注目される。

具体的には、今月の欧米各国の回復率(コロナ前比70%減)へ

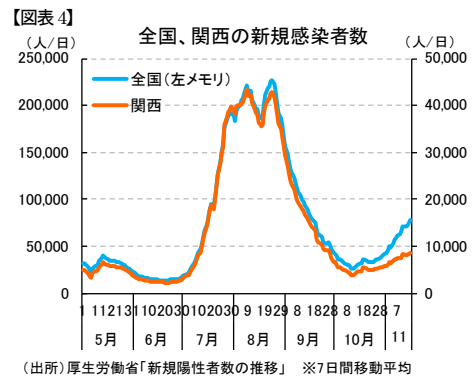


※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

の到達時期が大きな意味を持つ。今月は台湾が 91.5%減、香港が 80%減という状況であり、両者が 70%減に近づけば、訪日客数全体の 20 万人近い押し上げにつながる。

ただし、ここへきて新型コロナの感染第 8 波への懸念が高まっている。まだ関西では明確な拡大傾向がみられないものの、北海道や東北を中心に、全国的には感染の拡大が始まっている(図表 4)。この傾向が続けば、水際対策の緩和に対する批判が出る可能性は高い。

加えて、海外では訪日旅行を避ける動きが出ると予想される。日本が世界有数の感染拡大地域との認識が広がれば、当然ながら日本を訪れる動きも減少する。場合によっては予想以上の減少につながる可能性があり、今後の動きが注視される。



本件照会先：大阪本社 荒木秀之  
TEL：06-6258-8805 mail：hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。